

Close Up クローズアップ 教育プログラム②

日常的に幼児への交通安全教育ができるように こども園・幼稚園・保育所に Honda の教材を普及

埼玉県秩父市は、市内のこども園・幼稚園・保育所に Honda の幼児向け教材「歌って踊って『止まるニャン!』」の利用を案内している。同市が、そのような活動に取り組む背景と、実際に取り入れたこども園と保育所の声を紹介する。

「歌って踊って『止まるニャン!』」は、交通安全教育プログラム「できるニャンと交通安全を学ぶ※1 幼児編」に収録されている「できるにゃんたいそう（以下、体操）」をベースで作成されている。「とまる」「みる」「まつ」という道路を安全に横断するための基本行動を幼児に身につけてもらえるようになっており、幼稚園等の先生方が継続的に活用することで、楽しみながら安全な交通行動に慣れ親しむことができる。体操と合わせ、体験パーツ「止まるニャン!」も用意。これは「とまれ」を表す標識や足型のマークで、園内の危険箇所の壁や足元などに貼り、日常の中で幼児に「とまる」行動を身につけてもらうことを目的としている。

秩父市交通安全教育担当指導員 久保田匡美さんは「私たちが幼児に指導できるのは年に1回しかありません。先生方に毎日、少しの時間でも構わないので、交通安全に触れる機会をつくってほしいと思っていました。Honda の教材はそのきっかけになると考え、今年は交通安全教

室を実施した直後、先生方に体操や体験パーツを案内することになりました」という。交通安全教室の指導内容は「とまる」「みる」「まつ」「たしかめる」に集約されている。そのため、体操や体験パーツの活用によって、教育効果を持続させることを久保田さんは期待している。

体操を活用している秩父市立日野田保育所の保育士は「体操は小さいこどもにもわかりやすくつくられていて、使いやすいと感じています。2～3歳でも年長のこどもと一緒に喜んで体操してくれます。交通安全教室でルールを学んでも、こどもたちは慣れや忙しさで遵守することが疎かになりがちです。日々の生活の中で繰り返し指導を行っていく必要があると思っています」と話す。

また、体験パーツも先生方に好評だという。秩父ふたばこども園では、体験パーツを園内に設置したところ、園児の行動に変化があったそうだ。同園の園長 枋原美奈子さんは「全員が必ず通る廊下と廊下が交差する場所に体験パーツ



振り付け入り体操で楽しみながら交通安全行動を身につけてもらう「できるにゃんたいそう」



秩父ふたばこども園の園内に設置されている体験パーツ。廊下のほか、トイレの出入り口にも貼っている

を貼りました（写真参照）。私たちは体験パーツのことを知らせませんでした。それを目にしたこどもたちは『とまれって書いてある』『とまらなくちゃいけないんだ』と体験パーツの手前で止まるようになりました。止まらなければいけなくなったことで、走るスピードも控えるようになったのです。ここは、走ってくることも同士がぶつかることがあったので、よく『廊下で走らない』と注意していました。こどもには口頭で伝えるより、目に入って興味を引くもののほうが、効果があると実感しています。今では、私たち大人が止まらないと、こどもに注意されます」と説明する。そして、園児たちが体験パーツの存在を認識したところで、道路にも「とまれ」の標識があることを伝えたそうだ。



体験パーツ「止まるニャン!」は標識と足型マークがある



秩父市交通安全教育担当指導員の皆さん（写真左から高梨真由美さん、高橋久美さん、久保田匡美さん、高橋文代さん）

「実際の標識を見つけた時、そこは止まらなければいけない場所であることに気づいてほしいと考えています」。

さらに、同園は「できるニャンと交通安全を学ぶ 幼児編」を取り寄せ、先生方がこれを使って交通安全指導を行っている。「ただ映像を流すだけでなく、どんな危険があるか、事故に遭わないためにはどうしたらいいかを、こどもたちに問いかけ、考えさせる点が良いと思いました。指導員の方々による交通安全教室の復習になるので、今後も継続的に活用していくつもりです」。

※1 Honda の交通安全啓発キャラクター「できるニャン」が登場するアニメーションを活用した対話型のプログラム。幼児編と小学校低学年歩行編の2種類ある。

Close Up クローズアップ Honda の活動

Enjoy Honda の来場者に交通安全への理解を深めてもらうために

Enjoy Honda は、Honda のモータースポーツや二輪・四輪・パワープロダクツ製品を「見て、遊んで、体感する」ことを目的としたイベントである。こどもから大人まで、Honda の持つ多面的な魅力が楽しめる参加体験型プログラムを数多く実施。安全ブースでは交通安全に関する様々な体験ができるプログラムを用意している。7月22日と23日の両日、石川県産業展示館（石川県金沢市）で Enjoy Honda 2023 が開催された。

Enjoy Honda 2023 では「みんなで安診（みんなで安全運転行動診断）映像版」を活用したクルマのドライバーへの啓発活動を行っている。ペダルの踏み間違いなどの「運転操作不適」による事故は高齢者だけでなく、若年層にも多い。Honda は、すべてのドライバーに、ペダルの踏み間違いを防ぐ安全行動の重要性に気づいてもらうためのプログラム「みんなで安診」を開発した。「みんなで安診 映像版」は、Honda の交通安全啓発キャラクター「できるニャン」が進行役となり、ペダルの踏み間違いの防止につながるポイントを伝えていく内容となっている。熱心に聞き入っていた50代の夫婦は「ペダルの踏み間違いは年齢にかかわらず、誰でもやってしまう可能性があり、予想しないことが起き

た時にパニックにならないようにすることが重要だとわかりました。高齢になっていくので、今後は踏み間違い防止機能が付いたクルマへの買い替えも検討したいと思います」と話す。

さらに「みんなで安診 映像版」で乗車時に安全の不確認を原因とした事故を防ぐため、クルマの死角の広さと乗車前の周囲の安全確認の手順を紹介した後、四輪販売会社のスタッフが隣に用意された「死角体験コーナー」を案内した。参加者は運転席に座って、実際にどのくらい見えないのかを体験。最近、フィットからステップワゴンに買い替えただけという女性は「自分が想像していた以上に死角の範囲が広くてビックリしました。十分に気をつけていたつもりでしたが、もっと注意しなければならな



参加者が「みんなで安診 映像版」を視聴し、ペダルの踏み間違いを防止するための安全行動を学んだ

実感しました」と気を引き締めていた。この他、親子連れを対象に「親子で学ぼう！交通安全」も実施。四輪販売会社の Honda Cars 愛知、Honda Cars 北陸などを展開する（株）ホンダモビリティ中部のスタッフが「あやとりひよこ※2」を使って、来場した親子への交通安全指導を行った。指導を担当した同社人事部研修課主任 安藤君枝さんは「クルマを販売する会社として売るだけでなく、こどもを交通事故から守るための活動も重要だと考え、2020年からショールームに来店する幼児への交通安全指導を始めました。昨年から私たちが幼稚園・保育園へ出向いて、交通安全教室も各地で展開しています」という。4歳と5歳のこどもと参加した母親は「話だけでなく、イラ

ストを使って説明してもらえたので、小さいこどもにもわかりやすい内容だと感じました。こどもたちが質問に一生懸命に答えようとする姿が印象的でした。保育園でも交通安全教室がありますが、こうした機会があるとさらに理解が深まると思います」と感想を語った。

※2 4～5歳児を対象とした Honda の交通安全教育プログラム。歩くことに焦点を当て、「どこを歩くのか」「どのように歩くのか」を考えてもらいながら交通安全の基本を学ぶことができる。

●Enjoy Honda 2023 開催予定

9月30日(土)	10月7日(土)	10月28日(土)
10月1日(日)	10月8日(日)	10月29日(日)
HSR九州 (熊本県大津町)	ハイブ長岡 (新潟県長岡市)	鈴鹿サーキット (三重県鈴鹿市)



「死角体験コーナー」では、クルマの周囲に置いてあるパイロンが運転席からどのように見えるか、参加者に体験してもらった。乗車する際は、クルマの周囲に何もなにか確認して乗り込むようスタッフがアドバイス



「親子で学ぼう！交通安全」では「あやとりひよこ」を使って指導



会場となった石川県産業展示館には、こどもから大人まで多くの人を訪れた